

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名(中島 秀之)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-18年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 alphabet で記入してください)

全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

2006年度

中島秀之, 橋田浩一, 松尾豊

& ITと社会を繋ぐ認知科学

\$ 認知科学 14(1):31-38, 2007 招待論文

Hideyuki Nakashima

& Cyber-Assisting Real World with Ambient Intelligence and Semantic Computing

\$ International Joint Conf. on AI, Jan 2007 招待講演

Yutaka Matsuo, Naoaki Okazaki, Kiyoshi Izumi, Yoshiyuki Nakamura, Takuichi Nishimura, Koiti Hasid

& Inferring Long-term User Properties based on Users' Location History

\$ Proc. IJCAI 2007 pp. 2159-2165, Jan 2007 国際会議

中島秀之

& 「モノ」から「コト」へ～情報による実世界仮想化計画～

\$ 電子情報通信学会 PRMU/DE 研究会 DE2006-9 PRMU2006-47 p.49 Jun

中島秀之

& 情報処理技術と人類の未来

\$ 未来社会形成における科学技術の役割, pp.143-148, 2006, 書籍章

松尾豊, 篠田孝祐, 中島秀之

& 中心性に着目した合理エージェントのネットワーク形成

\$ 人工知能学会論文誌 Vol.21 (2006), No.1, 122-132

Hideyuki Nakashima, Masaki Suwa, Haruyuki Fujii

& Endo-System View as a Method for Constructive Science

\$ 5th International Conference of the Cognitive Science (ICCS), July 2006

2005 年度

Toru Ishida, Les Gasser, Hideyuki Nakashima

& Massively Multi-Agent Systems I

\$ LNAI 3446, Springer, 2005, 編集

Hitomi Murakami, Hideyuki Nakashima, Hideyuki Tokuda, Michiaki Yasumura

& Ubiquitous Computing Systems

\$ LNCS 3598, Springer 2005, 著書

中島秀之

& 情報技術と教育：情報通信と情報処理

\$ 情報処理学会誌 Vol.46 No.1, 2005, 査読論文

Hideyuki Nakashima, Tomohisa Yamashita, Kiyosih Izumi, Koichi Kurumatani

& Eastern View in Science - Theorists' View vs. Agents' View -

\$ American Association for the Advancement of Science (AAAS2005), Washington DC, February 2005, 国際

Hideyuki Nakashima, Itsuki Noda, Masayuki Ohta, Yoichiro Kumada, Kosuke Shinoda

& Smooth Traffic Flow with a Cooperative Car Navigation System

\$ pp. 478-485, Proc. AAMAS 2005, 国際会議

Hideyuki Nakashima

& Usability of Dial-a-Ride System

\$ pp. 1281-1282, Proc. AAMAS 2005, 国際会議

Hideyuki Nakashima, Tomohisa Yamashita, Kiyosih Izumi, Koichi Kurumatani

& Eastern View in Science – Theorists' View vs. Agents' View

\$ American Association for the Advancement of Science (AAAS2005), Washington DC, February 2005, 国際

N. Huhns, M. Singh, M. Burstein, K. Decker, E. Durfee, T. Finin, L. Gasser, H. Goradia, N. Jennings, K. V. Parunak, J. Rosenschein, A. Ruvinsky, G. Sukthankar, S. Swarup, K. Sycara, M. Tambe, T. Wagner, L. Z
& Research Directions for Service-Oriented Multiagent Systems
\$ IEEE Internet Computing, Vol.9, No.6, pp.65-70, 2005, 国際ジャーナル

中島秀之, 和泉憲明

& 知識表現から見たセマンティック Web

\$ コンピュータソフトウェア, Vol. 22, No.4, pp.46-54, 解説論文

中島秀之

& 学習における注意の役割

\$ ベビーサイエンス (日本赤ちゃん学会) 2005, Vol. 5, pp.38-39, 2006, 解説論文

2004 年度

瀬名 秀明, 浅田 稔, 銅谷 賢治, 谷 淳, 茂木 健一郎, 開 一夫, 中島 秀之, 石黒 浩, 國吉 康夫,
柴田 智広

& 知能の謎：認知発達ロボティクスの挑戦

\$ 講談社ブルーバックス, 2004, 著書

Hideyuki Nakashima

& Ubiquitous Displays for Ubiquitous Computing

\$ IDW'04 (International Display Workshop), Dec. 2004, 招待講演

中島秀之・車谷浩一・伊藤日出男

& ユビキタス情報処理による社会支援

\$ 情報処理学会誌 Vol.45 No.9, 2004, 解説

Yutaka Matsuo, Akira Takagi, Shigeyoshi Hiratsuka, Koiti Hasida, Hideyuki Nakashima

& Spatial Function Representation and Retrieval

\$ Proc. PRICAI 2004: 1009-1010, 2004, 国際会議

Takuichi Nishimura, Yoshiyuki Nakamura, Hideo Itoh, and Hideyuki Nakashima

& System Design of Event Space Information Support Utilizing CoBITs

\$ ICDCS Workshops 2004: 384-387 (2004) 国際ワークショップ

Takuichi Nishimura, Hideo Itoh, Yoshiyuki Nakamura, Yoshinobu Yamamoto,

Hideyuki Nakashima

& A Compact Battery-Less Information Terminal for Real World Interaction

\$ Proc. Pervasive 2004: pp.124-139, 2004, 国際会議

Kosuke Shinoda, Itsuki Noda, Masayuki Ohta, Yoichiro Kumada, and Hideyuki Nakashima

& Is Dial-a-Ride Bus Reasonable in Large Scale Towns?

\$ Multi-Agent for Mass User Support 2004, pp. 105-119, 2004, 国際会議

2003 年度

土屋, 中島, 中川, 橋田, 松原, 大澤, 高間編

& AI事典 第2版

\$ 共立出版 (pp.128,214,394,435, 504,505,ならびにpp. 196-202 編集担当) 2003, 著書

中村嘉志, 西村拓一, 伊藤日出男, 中島秀之

& 無電源でユーザ属性と位置を発信するCHOBIT端末の設計と実装

\$ 情報処理学会論文誌 44(11) Nov (pp.2670-2680) 2003, 査読論文

西村拓一, 伊藤日出男, 中村嘉志, 山本吉伸, 中島秀之

& 位置に基づくインタラクティブ情報支援のための無電源小型情報端末

\$ 情報処理学会論文誌 44(11) Nov (pp.2659-2669), 2003, 査読論文

Nakamura, Nishimura, Itoh, and Nakashima

& ID-CoBIT: A battery-less information terminal with data upload capability

\$ Proc. of the 29th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON 2003) USA Nov (pp.2511-2516) 2003, 国際会議

Noda, Ohta, Shinoda, Kumada, and Nakashima

& Evaluation of Usability of Dial-a-Ride Systems by Social Simulation

\$, "Proc. of Fourth International Workshop on Multi-Agent-Based Simulation, pp.139-152, July 2003, 国

Nakamura, Nishimura, Itoh, and Nakashima

& A system of card type battery-less information terminal : CardBIT for situated interaction

\$ Proc. of IEEE International Conference on Pervasive Computing and Communications (PerCom 2003), pp. 369-377, 2003, 国際会議

Hideyuki Nakashima

& Cyber assist project and its security requirements

\$ Proc. The First International Conference on Security in Pervasive Computing, Springer, 2003, 招待講演

Hideyuki Nakashima

& Grounding to the Real World - Architecture for Ubiquitous Computing -

\$ Springer LNAI 2871 Foundations of Intelligent Systems, pp.7-11 ISMIS, 2003, 招待講演

2002 年度

Itoh, Akiyama, Nakamura, Nishimura, Yamamoto, Hidaka, and Nakashima

& Spatial Optical Interconnection Technique with Low Power Consumption for
a Location-Based Information Service Environment

\$ Optical Memory & Neural Networks (Information Optics) Vol.11 No.3, pp. 155-158, 2002, 査読論文

Edmund H. Durfee, Sarit Kraus, Hideyuki Nakashima and Milind Tambe

& Editorial

\$ Artificial Intelligence 142(2):95-97, 2002, 国際ジャーナルゲスト編集

中島秀之, 橋本政朋

& 日常生活のための知的都市情報基盤

\$ 情報処理 vol. 43 no. 4, pp. 573-578, 2002, 解説論文

Hideyuki Nakashima, Takuichi Nishimura, and Koiti Hasida

& Cyber Assist for Situated Human Support

\$ AAAI Workshop on Intelligent Situation-Aware Media and Presentations, pp. 21-22, AAAI Press, 2002, 招待講演

Hideyuki Nakashima

& Cyber assist project for situated human support

\$ Proc. The Eight International Conference on Distributed Multimedia Systems, pp. 3-7, Knowledge Systems
1-891706-11-X, 2002, 招待講演(Keynote)

2001 年度

中島秀之

& マイボタンによる状況依存支援

\$ 人工知能学会誌 vol. 16 no. 6 , pp. 792-796, 2001, 査読論文

H. Nakashima and Koiti Hasida

& Location-based communication infrastructure for situated human support

\$ Proc. SCI 2001(World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics), 2001, 国際会議

中島, 橋田, 森彰, 伊藤, 本村, 車谷, 山本, 和泉, 野田

& 情報インフラに基づくグラウンディングとそのサイバーアシストプロジェクトの概要

\$ コンピュータソフトウェア vol. 18 no. 4, pp. 48-56, 2001, 解説論文

中島秀之

& 科学・工学・知能・複雑系-日本の科学をめざして

\$ 科学vol.71,no.4/5,pp.620-622, 岩波書店, 2001, 依頼原稿

中島秀之

& ユビキタス情報社会に向けた技術開発

\$ 情報処理学会「マルチメディア, 分散, 協調とモバイル」シンポジウム(DICOMO2001) pp. 393-398 ISSN

中島秀之

& サイバーアシストから自然言語処理技術への期待

\$ 自然言語処理技術に関するシンポジウム, 2001, 招待講演

中島秀之

& サイバーアシスト計画

\$ 電子情報通信学会新世代ネットワークミドルウェアと分散コンピューティング第一回研究会, 2001, 招待講演

Hideyuki Nakashima

& Toward Human Centered Ubiquitous IP Environment

\$ Proceedings of Fourth International Conference on Computational Intelligence and Multimedia A
(page 2) IEEE, 2001, 招待講演

2000 年度

中島秀之

& 知的エージェントのための集合と論理

\$ 共立出版(全 p158) 2000 著書

2) 学会活動（役員・会員）、学会の組織運営、学会誌の編集委員など（平成 12-18 年度に限る）

例：

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間（年月）

註：専門分野によっては適宜変更（例えば、学会を展覧会などと記す）・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

国内学会

日本ソフトウェア科学会

& 理事

\$ 平成 12-14 年

情報処理学会

& 理事

\$ 平成 13-15 年

Journal of Visual Computing

& 編集委員

\$ 平成 14 年-

日本機械学会位置情報利用技術研究交流委員会

& 幹事

\$ 平成 14-15 年

日本認知科学会

& 会長

\$ 平成 15-16 年

日本学術会議基盤情報通信研究連絡委員会

& 委員

\$ 平成 15-18 年

情報処理学会

& フェロー

\$ 平成 16 年-

日本工学アカデミー

& 会員

\$ 平成 16 年-

電子情報通信学会(情報システムソサエティ)

& 会員

\$ 平成 16 年-

日本認知科学会

& 常任運営委員

\$ 平成 17 年-18 年

情報処理学会

& 理事 (副会長)

\$ 平成 18 年-

国際学会

AAMAS2002

& Program Co-chair

\$ 平成 14 年

Pacific Rim International Conference on AI

& steering committee

\$ 平成 14 年

ISMIS2003

& Program Co-chair

\$ 平成 15 年

PRIMA2003

& Program Co-chair

\$ 平成 15 年

ICMI2003

& Program Co-chair

\$ 平成 15 年

MU3I (Workshop on Multi-Modal Ubiquitous User Interface)

& Program Co-chair

\$ 平成 16 年

ICSDC2004

& Program Co-chair

\$ 平成 16 年

AAMAS2004

& Program Co-chair

\$ 平成 16 年

AAMAS2006

& General Co-chair

\$ 平成 17-18 年

3) 研究費獲得状況 (未来大学外からの財源) (科学研究費、財団助成金、委任経理金など
(平成 12-18 年度に限る))

例:

平成 12-(13)年度

& 財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

% 代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究 (相手機関の協同研究者数など)

¥ 研究経費 (例: 平成 12 年度; 800 千円、平成 13 年度; 500 千円)

平成 12-17 年度

& CREST

\$ 人間中心の知的情報アクセス技術

% 分担者 (産業技術総合研究所サイバーアシスト研究センターが中心に実施)

¥ 各年約 1 億

4) その他 (特許、内地研究 (学内共同研究は除外) および在外研究歴と成果など特記すべきこ

と。本項目は平成 12-17 年度に限定しない。)

中島秀之.「通信装置および通信方法」特許第 3627012 号 平成 16 年 12 月 17 日(特願 2001-20798 平成 13 年 7 月 9 日)

2 教育業績

1) 教育負担の実態 (複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ) 本項目は時間割に含まれた教科 (補講・補習など教室で行なったものは含む) を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。(平成 12-18 年度に限る)

例:

科目名 (講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数 (単独の場合は不要)

& 実施期間 (平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月)、実施コマ数 (休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数 (例: 実施 13 コマ、休講 2 コマ)

\$ 実働時間数 (全て、実時間合計(推定)値をお願いします)、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください (例: 実働 22.5 時間)

% 受講登録学生数 (例: 45 名)、平均的出席者数 (例: 38 名; 初めは 40 名、終りは 25 名など)、単位認定 (合格) 者数

註: 本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。) また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付け

などについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

--

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成 12-18 年度に限る）

平成 16 年- 学長 平成 16 年- 自己評価委員会委員長 平成 16 年- 入試委員会委員長

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 12-18 年度に限る）

平成 16 年- 青函インターブロック交流圏構想推進協議会推進委員 平成 16 年- 函館地域産業振興財団理事 平成 16 年- 函館骨髄バンク推進協議会理事 平成 16 年- 財団法人北海道科学技術総合振興センター（NOASTEC）評議員 平成 16-17 年 公立大学協会地域貢献推進特別委員会委員 平成 18 年- 公立大学協会評価特別委員会委員 平成 18-19 年 函館地域リサーチ&ビジネスパーク構想推進協議会委員
